

# 英語科学習指導案

日時 平成26年5月30日（金） 1校時  
学年 1年2組 男子20名 女子20名 計40名  
指導者 有島玲奈子

## 1 単元名 NEW HORIZON English Course 1 Unit 3 はじめまして、ブラウン先生

## 2 単元について

### (1) 教材観

本単元は、新任ALTのブラウン先生が、さくら、一郎、ベッキー、ケビンの学級で初めて授業をするという内容である。具体的には、英語科の田中先生による紹介を受け、ブラウン先生が自己紹介する場面、生徒の質問にブラウン先生が応答する場面から構成されている。言語材料としては、一般動詞を用いた〔主語＋動詞〕に目的語が加わった文構造の肯定文や疑問文とその応答、否定文、呼びかけの表現などが扱われている。このような言語材料を用いて、生徒は、自分が関心のある事柄についての情報を含めた簡単な自己紹介をしたり、趣味や学校生活などについて相手にたずねたり答えたりすることが可能となる。よって、本単元は、友だちやALT、本校が交流している台北教育大学の学生などの外国人に、自分のことを英語で紹介したり、英語で質問したりしたいという意欲をかき立てる題材であると考えられる。

### (2) 生徒観

本学級の生徒は、明るく積極的な態度でペアやグループによる言語活動に取り組んでいる。アンケート結果によると、英語でのコミュニケーションが好きだと答えている生徒は約7割おり、その多くは、学んだ英語や身振り手振りなどを使い、自分のことを伝えたり相手のことを知ったりすることの楽しさを経験しているようである。また、ほとんどの生徒が、小学校での外国語活動においては、アイコンタクトや相づち、会話の継続などを大切にして取り組んできたと答えていることから、英語でのコミュニケーションに対する積極的な態度が十分に養われていると考えられる。そこで、小学校外国語活動で生徒が好んで取り組んできたゲームやリズムチャンツ、Hi, friends! の教材などを活用しつつ、これまでに培われた積極的な態度を維持させ、十分に音声に慣れ親しませることを通して、授業の形態や進度、文字の読み方や書き方などの中学校英語に対する生徒の不安を解消し、小学校から中学校へのスムーズな接続を行う必要がある。

一方、約3割の生徒は、英語でのコミュニケーションが苦手だと答えている。英語独特の音声の聞き取りにくさや自分のことがうまく相手に伝わらなかったことなどの経験が、英語学習に対する不安や自信のなさにつながっているようである。そこで、生徒間にある興味・関心の差や習熟の差を補完し合い、どの生徒も自分の役割と責任を果たしながら自信をもって言語活動に取り組めるように、ペアやグループによる協働的な言語活動の充実を図る必要がある。また、互いの考えや意見を組み合わせながらよりよい表現ができるように、理解した情報を絵や図などで構造化させたり、それを基に理解した内容を相手に分かりやすく説明させたりする活動を通して、知的コミュニケー

ションを活性化させる必要がある。

次に、「書くこと」や「読むこと」の言語活動に対して、多くの生徒が高い興味・関心をもつ一方で、中学校で初めて学習する文字の読み書きに不安を抱いている。小学校外国語活動においては、積極的に取り組むことで間違いを恐れず英語に慣れ親しむことができた。ゆえに、文法や語順等の定着が求められる中学校英語に対する不安や自信のなさがあるのではないかと考えられる。そこで、生徒の不安や負担を軽減するために、特に、文字指導においては、英語の音と綴りの関係を意識させながら、英語に親しませる指導から定着を図る指導への移行を段階的・計画的に行う必要がある。

さらに、アンケートの記述から、外国人との交流を経験した生徒の多くが、初めて会う外国人との対話を楽しむためには、単に自分のことについて話したり相手に質問したりするのではなく、互いの共通点を探り合いながら質問し合うことが大切であると考えており、また、外国人との交流が国際的な視野を広めるのに役立つと感じているようである。しかし、実際の対話の場面で、相手の意向を捉え適切に応答しようとする生徒は少ないようである。

これらのことから、本単元では、生徒が慣れ親しんだ題材を用いながら音声面を重視した語彙や表現の指導を行う。また、生徒が自信をもって取り組めるように、ペアやグループによる協働的な言語活動を充実させ、生徒一人一人に役割や責任をもたせたい。その際、相手の意向を捉えさせるような課題文の作成、情報の構造化や構造化させた情報の再構成などの工夫を通して生徒の知的コミュニケーションを活性化させ、学習した知識・技能の定着を図る。さらに、ALTや台北教育大学の学生などとの交流を通して、コミュニケーションを図ることの楽しさや有用感を味わわせたい。これらの工夫を通して、国際的な視野をもち円滑にコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成できると考える。

### (3) 指導観

本単元の題材の特性を生かし、友だちや台北教育大学の学生、ALTなどの外国人との出会いをきっかけに、自分のことを相手に伝えたり、相手のことをもっと知りたいという意欲をもたせ、互いに紹介し合ったり質問し合ったりできるような授業を展開したい。そのために、まず、教科書の内容を中心に、small tasksを通して、特技や趣味、通学方法などを伝えたり質問したりするための言語材料を理解させる。さらに、言語活動においては、協働の視点を取り入れ、互いの協力と責任の下、考えを補完したり組み合わせたりしながら、相手の発話内容を適切に理解し、キーワードや絵、図などを用いて情報を構造化できるようにしたり、構造化された情報を基に再構成し、相手の意向に適切に応じたりすることができるようにする。また、各時においては、英文を書く際の基本的なルール等を段階的に指導しながら、「書くこと」への導入をスムーズに行えるようにする。最後に、「ニック先生のことをもっと知ろう」という large task に取り組ませ、生徒が small tasks の経験を生かし、自分のことについて英語で紹介したり、互いのことについて質問し合ったりできるようにする。

このような指導を通して、小学校における外国語活動で培った積極的な態度を維持させながら、相手の発話内容を適切に理解し、適切に応じる力を高め、国際的な視野をもち、円滑にコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成できると考える。

【アンケート結果】（平成26年4月10日実施 対象者：1年2組 男子20名 女子20名 計40名）

1 小学校での英語の活動で、あなたが楽しかったものは次のどれですか（複数回答可）。	
ア ゲーム	97.5%
イ リズムに合わせて英語を発音すること	42.5%
ウ 先生と英語でおしゃべりをする	35.0%
エ 英語の歌を歌うこと	27.5%
オ 英語を暗唱すること	25.0%
カ 英語で劇をすること	22.5%
キ Hi, friends! を使った活動	20.0%
ク 自分で作った英語を発表すること	10.0%
2 小学校での英語の活動で、あなたが得意だったものは次のどれですか（複数回答可）。	
ア ゲーム	50.0%
イ Hi, friends! を使った活動	37.5%
ウ 英語を暗唱すること	22.5%
エ リズムに合わせて英語を発音すること	22.5%
オ 先生と英語でおしゃべりをする	20.0%
カ 特になし	17.5%
キ 英語の歌を歌うこと	15.0%
ク 自分で作った英語を発表すること	15.0%
3 あなたは外国語活動で、英語を使ってコミュニケーションすることが好きでしたか。その理由も教えてください。	
ア とても好き	20.0%
（理由：習った英語を生かせる、相手に通じてうれしい、自分の世界が広がった、ジェスチャーが楽しい、相手を知ることができる など）	
イ どちらかという好き	47.5%
（理由：外国人との交流が楽しかった、身振り手振りでも通じた、英語ができると格好いい、世界が広がった気がした など）	
ウ どちらかという苦手	30.0%
（理由：聞き取りにくい、言いたいことが伝わらない、得意ではない、緊張する、自分の英語が通じているか自信がない など）	
エ とても苦手	2.5%
（理由：分からなかったから）	
4 あなたは外国語活動で、英語を使ってコミュニケーションをするとき、どのようなことを大切にしていましたか（複数回答可）。	
ア 相手が話したことに對し、うなずいたり首を振ったりなどの相づちを打つこと	72.5%
イ 相手の目を見て話すこと	45.0%
ウ 分からない英語があっても、ジェスチャーや絵・図などを使って何とか通じるように話すこと	40.0%
エ 沈黙する時間が長くないように、できるだけ自分から話すようにすること	37.5%
オ 特に大切にしていることはなかった	5.0%
カ つなぎ言葉を積極的に使って話すこと	2.5%
5 これから始まる中学校の英語の授業で、あなたが不安に感じていることを教えてください（自由記述）。	
ア 途中で分からなくなり授業についていけなくなる	30.0%
イ 単語の綴りや表現を覚える	17.5%
ウ 特になし	15.0%
エ 読むこと	15.0%
オ 書くこと	10.0%
カ 自分の英語が相手にきちんと伝わるかどうか	5.0%
キ みんなの前で発表すること	2.5%
6 アメリカから来た中学生のマイクが、「あなたはマンガが好きですか。」と話しかけてきました。	
(1) なぜ、マイクは「マンガが好きですか。」と、あなたに話しかけたのだと思いますか（自由記述）。	
ア マンガ好きだという共通の趣味をもった友だちが欲しかったから	45.0%
イ マイクはマンガが好きだから	35.0%
ウ 日本と言えばマンガのイメージがあり、日本のマンガに興味をもったから	22.5%
エ 何か話すきっかけを作ったから	17.5%
オ その他（マイクは自分を話しやすい人だと思ったから、マイクはマンガが嫌いだから など）	5.0%
(2) あなたは、マイクの質問に對し、どのように答えますか。	
ア 「はい」または「いいえ」と答える	60.0%
イ 「はい」または「いいえ」と答え、さらに「あなたはどうですか。」とたずねる	22.5%
ウ 「はい」と答え、さらに自分が好きなマンガについて説明する	10.0%
エ その他（マイクと友だちになりたいという気持ちで話す、アメリカにはどのようなマンガがあるか、アニメなら好きだ など）	7.5%
(3) マイクとおしゃべりが盛り上がるようにするために、あなたはどのような質問をしますか。	
ア マイクや自分が好きなマンガのタイトルや登場人物、内容について	55.0%
イ アメリカの文化やマイクの趣味、特技などについて	17.5%
ウ 日本に関すること（日本に来たきっかけ、行ってみたい観光地、好きな日本料理 など）	15.0%
エ マイクと自分との共通点を探るような質問	5.0%
オ 分からない	2.5%

### 3 単元の計画

#### (1) タスク「ニック先生のことをもっと知ろう」

#### (2) large task で活用させたい主な言語材料

言語の働き	学年・単元	教科書での表現 ※太字は小学校で慣れ親しんでおり、本時と関連のある言語材料
自己紹介する	1年U3-① 1年U3-① 1年U3-② 1年U3-② 1年U1-① H・F1L1 H・F2L3 H・F2L8	I like soccer. I play soccer every Sunday. I come to school on Tuesday and Friday. I walk. I'm Becky. My name is Suzuki Sakura. I can swim very well. I want to be a singer.
質問する	1年U3-② 1年U3-② 1年U3-② 1年U3-③ 1年U3-③ 1年U3-③ 1年U1-③ H・F2L3	Do you play the piano? Do you come to school every day? Do you come by bike? Do you drive? Do you want a car? Do you speak Japanese? Are you from Canada? Can you play soccer?
質問に答える	1年U3-② 1年U3-② 1年U3-③	Yes, I do. No, I don't. Yes, but I don't have a car now.
呼びかける	1年U2-②	Excuse me.
あいさつをする	1年U1-① 1年U1-①	Hi. Nice to meet you.
相づちをうつ	1年U1-②	Me, too.

#### (3) large task における活用例（自己紹介とALTへの質問）

<p>ALT: Hello, I'm Nick. I'm from Australia. I like sports. I like animals, too. I like noodles very much. So I usually have noodles for lunch. Do you have any questions?</p> <p>SI: You are from Australia. So do you play rugby?</p> <p>ALT: Yes, I do. I like it very much. It's fun. I play it on Sunday.</p> <p>S2: I like animals, too. Do you like koalas?</p> <p>ALT: Yes, I do. We can see wild koalas in Australia.</p> <p>S3: Do you like Japanese noodles?</p> <p>ALT: I love ramen. It's delicious. But I don't like soba very much.</p> <p>S4: I don't like sports very much. But I play dodge ball. Do you like dodge ball?</p> <p>ALT: Yes, I do. Shall we play it after lunch?</p>
--

#### (4) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
<p>① 相づちをうつなどして、関心をもって相手の話を聞いている。</p> <p>② 間違いを恐れず、ジェスチャーや接続詞などを工夫しながら話を続けようとしている。</p> <p>③ 聞き返しや質問、言い換えなどの工夫をしながら積極的に相手を理解しようとしている。</p>	<p>① 既習事項を用いて、自分の趣味や特技などについて自己紹介をすることができる。</p> <p>② 聞き取った自己紹介について、自分や相手の経験を生かしながら、相手の意向を捉えた質問や応答をすることができる。</p>	<p>① 語句や表現、文法事項などの知識を活用して、自己紹介の内容を正しく聞き取ることができる。</p> <p>② 友だちや先生の自己紹介を聞いて、その内容の要点を適切に理解することができる。</p>	<p>① 一般動詞を用いた【主語＋動詞】に目的語が加わった文構造を理解している。</p>

## (5) 指導と評価の計画

時間	○タスク ・ 学習活動	単元の評価規準	評価方法 (総括的評価)
1	○ [small task] 単元のあらましを理解しよう ・ Unit 3 のスキーマ形成 ・ large task の設定 ・ 自己紹介スピーチをするために必要な情報の収集		
2	○ [small task] 好きなことや部活動について紹介しよう ・ Part 1 の内容理解と音読練習, 要約, 一般動詞を用いた [主語 + 動詞] に目的語が加わった文構造の形, 意味, 用法の理解と表現練習, 英文の書き方の指導 ・ 自分の好きなことや部活動についての紹介	ア-② ウ-①	活動の観察 後日ペーパーテスト
3	○ [small task] 友だちや先生に質問しよう ・ Part 2 の内容理解と音読練習, 要約, 一般動詞を用いた [主語 + 動詞] に目的語が加わった文構造の疑問文の形, 意味, 用法の理解と表現練習, 英文の書き方の指導 ・ 友だちや先生の自己紹介への質問	ア-① イ-①	活動の観察 後日ペーパーテスト
▶ 4	○ [small task] 台北教育大学の学生のことをもっと知ろう ・ Part 3 の内容理解と音読練習, 要約, 一般動詞を用いた [主語 + 動詞] に目的語が加わった文構造の否定文の形, 意味, 用法の理解と表現練習, 英文の書き方の指導 ・ 友だちや先生の自己紹介の再構成と質問の作成	イ-② ウ-②	ワークシート ワークシート
5	○ [large task] ニック先生のことをもっと知ろう ・ A L T の自己紹介の理解と要約, A L T への質問の作成 ・ 自己紹介文の作成	ウ-② エ-①	ワークシート 後日ペーパーテスト
6	○ [large task] ニック先生のことをもっと知ろう ・ A L T に対する自己紹介と質問, A L T からの質問への応答	ア-① イ-②	活動の観察 ALT による評価用紙

## 4 本時の計画

### (1) 本時のタスク

「台北教育大学の学生のことをもっと知ろう」

### (2) 指導の重点

「聞くこと」「話すこと」

### (3) 本時の目標行動

導入時において, これまでに教科書に登場した人物に関する教師との英問英答を行い, 本時において使用する言語材料を体験的に理解する。その後, 台北教育大学の学生から届いたビデオレターを視聴し, その内容について, 教師とのインタラクションを通して本時のタスクを確認する。次に, 教科書本文の聞き取りを行った後, 音読練習を通して英語の音声の特徴を捉える。さらに, エキスパートグループで大学生の自己紹介を聞きとり, それぞれ聞き取った内容をホームグループで共有する。その後, 大学生を迎えてのウェルカムパーティーの開催に必要な情報を得るために, 大学生にどのような質問をすればよいかを考え, 発表する。これらの活動を通して, 基本的な表現への理解を深め, さらに, 授業の終末時に, 英文を書く際のルールを確認しながら, 本時で学習した言語材料の知識や技能をノートに整理し, まとめを行う。

#### (4) 本時の指導目標

- ア 間違いを恐れずに積極的に友人や教師に質問したり、ジェスチャーや接続詞などを工夫したりしながら会話を続けようとする態度を育む。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- イ 聞き取った自己紹介について、自分や相手の経験を生かしながら、相手の意向を捉えた質問や応答をすることができるようにさせる。 【外国語表現の能力】
- ウ 自己紹介を聞いて、その内容の要点を適切に理解することができるようにさせる。 【外国語理解の能力】
- エ 友人や教師に質問したり、友人からの質問に答えたりする上で必要な表現や文構造について理解させる。 【言語や文化についての知識・理解】

#### (5) 授業設計上の工夫

##### ア 協働的な言語活動を充実させるための工夫

###### (ア) ジグソー学習（教科論6-(1)-ア-(ア)参照）

生徒の興味・関心や習熟度の差を補完したり、生徒一人一人に役割と責任をもたせたりするために、ジグソー学習を取り入れる。本時においては、台北教育大学の4人の学生の自己紹介を4つのエキスパートグループで分担して聞き取らせ、聞き取った内容を絵や図等を用いてまとめさせる。その後、ホームグループ内で、それぞれが得た情報を共有させ、ウェルカムパーティーの開催に必要な情報を得るために、大学生に質問する内容を考えさせる。その際、全員の考えや意見が反映されるようにリーダーを決めて取り組ませる。

これらのことにより、生徒は、自分や相手の知識や経験等を活用しながら、自信をもって言語活動に取り組むことができるようになると思った。

##### イ 知的コミュニケーションを活性化させるための工夫

###### (ア) 「要約」のための言語活動の工夫（教科論6-(1)-イ-(イ)参照）

相手の意向を捉えさせたり適切に応じさせたりするために、自分や相手の知識や情報等を再構成し、それらを表現と結びつける活動を取り入れる。本時においては、聞き取った自己紹介の内容を絵や図等を用いて構造化させ、さらに構造化された情報を基に、相手に自己紹介の内容を分かりやすく説明させる。その後、ウェルカムパーティーの開催に必要な情報を得るための最適な質問を考えさせ、発表させる。

これらのことにより、生徒は、与えられた情報や知識を「要約」することで、相手の意向に応じてよりよく伝えようとする経験を積み、円滑にコミュニケーションを図るために必要な表現力を高めることができたと思った。

##### ウ 円滑にコミュニケーションを図ろうとする態度を育むための工夫

###### (ア) 小学校外国語活動との接続を意識した指導の工夫（教科論6-(2)-イ参照）

生徒が、小学校外国語活動で英語に慣れ親しんできた経験を生かすことができるように、使用する語彙や表現を工夫したり、音声での導入により体験的に英語を理解させたりする。本時においては、導入段階で台北教育大学の学生から届いたビデオレターを視聴させ、大学生に関

する教師とのインタラクションにより体験的に英語を理解させる。

このことにより、生徒は、小学校外国語活動で育まれてきた失敗を恐れず、コミュニケーションを図ろうとする態度を中学校でも持続させることができ、また、授業や実際のコミュニケーションに好奇心をもちながら、積極的に言語活動に取り組むことができるようになると考えた。

(6) 本時の実際 (4/6)

区分	教授=学習過程	時間	生徒の活動	指導上の留意点 ◆評価 □補説 (研究との関連)	
導入		5'	1 英語で挨拶をする。  2 VTRを視聴し、その内容に関する教師の質問に答える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語学習の雰囲気を作る。</li> <li>小学校で慣れ親しんできた語彙や表現、ICT等を効果的に活用する。 (教科論6-(2)-イ)</li> </ul>	
	展開		40'	3 本時のタスクを把握する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">台北教育大学の学生のことをもっと知ろう</div> 4 本時で身に付けたい言語材料を、教師とのインタラクションやパターンプラクティスを通して理解する。 5 教科書本文の概要を把握する。 6 教科書のCDを聞く。 7 教科書の内容に関する教師の質問に答える。 8 教科書を音読する。 9 大学生に対する質問を考える。 (1) エキスパートグループに分かれ、学生の自己紹介を聞き取り、概要を理解する。 (2) ホームグループに戻り、それぞれ聞き取った自己紹介の内容を共有する。さらに、ウェルカムパーティーの開催に必要な情報を得るために最適な質問を考える。 10 大学生に対する質問を発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師とのインタラクションを通して、活動への興味や意欲をもたせた上でタスクを提示する。</li> <li>ICT等で示した絵や図等の内容を想起させながら、言語材料を体験的に理解させる。</li> <li>ピクチャーチャートを用いて教科書の本文の概要を把握させ、新出単語の確認を行う。</li> <li>生徒の理解の状況を把握し、段階的に新出語句を与えながらCDを聞かせる。</li> <li>◆ 教師の質問に適切に答えることができたか。 □ 教科書本文を見ながらCDを聞かせ、その後、質問に答えさせる。</li> <li>英語の音声の特徴を捉えさせた上で、繰り返し練習させる。</li> <li>聞き取った自己紹介の内容をホームグループで活用できるように、エキスパートグループ内で協力しながら絵や図等にまとめさせる。 (教科論6-(1)-ア-(7))</li> <li>グループ内の全員の意見が反映されるようリーダーを中心に組み立てる。 (教科論6-(1)-イ-(4))</li> <li>◆ 聞き取った自己紹介について、自分や相手の経験を生かしながら、相手の意向を捉えた質問や応答をすることができたか。 □ 各グループの意見やその根拠を確認させたり、比較させたりする。</li> </ul>
終末			5'	11 本時で学習した表現を振り返りながら、まとめを行う。  12 今後の活動の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文を書く際のルールを確認させながら、学習した基本文、新出単語を再確認させる。</li> <li>本時の活動を large task で活用できるように見通しをもたせる。</li> </ul>